

まにわ 報 Maniwa

2011

第69号

にぎ
賑わいと安らぎの杜の都 真庭

Public
Relations

- 主な記事
- 新年のごあいさつ ······ P02~
 - 不登校を超えて ······ P04~
 - 市政トピックス ······ P10~
 - お知らせワイド版 ······ P12~
 - まにわが好きっ読者の広場 ··· P20~
 - ぐるっと真庭まちの話題 ··· P26~

2011年
出発進行！



落合こども園交流もちつき大会 (12/16)

天神町老人クラブのおじいちゃんやおばちゃん、サポートあいの子どもたちと一緒に餅つきをしました。お屋には、みんなでつくったお餅を「きなこ餅」や「お雑煮」にして食べました。とってもおいしかったです

2011年1月

激動の時代に明るい展望を開く

真庭市長 井手 紘一郎

新年明けましておめでとうござります。希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申しあげます。

大変な激動の時代を迎えています。市民の皆様の生活が停滞し、地域全体が霸氣を失っています。こうした現状をどう打開するか。今年こそ明るい展望が開け、元気な年になりますよう祈念いたしております。

さて、これから的地方自治体は自立でき、個性あるまちをつくることが重要です。真庭市は合併して6年目を終えようとしています。が、一つの基礎自治体となつて、かなり個性がみえてきたと思います。他の地域にない、あるいは他の地域より進んだ個性を持ち合わせてきたのではないかと思っています。

特に今年は新本庁舎が落成し、大きな工ポツクの年となりそうです。庁舎だけが良くなつたなどと言われないように、職員全員が一丸となつて、真庭市の個性を創り、磨くと同時に地域のすみずみまで

活気と霸氣がみなぎるまちづくりに全力をあげたいと思います。

現下の喫緊の課題である地域経済・雇用対策をはじめ、国の施策に合わせ、市独自の活性化策を推進して、産業全体に活力を与えたいと考えています。

財政の健全化を一層進めるとともに、高齢者や障がい者などの社会的弱者に対する温かい福祉の充実や、子育て支援、子どもたちの健全育成、さらに真庭ひかりネットワークの活用、環境や防災など、直接市民生活にかかわる施策を推進いたします。

私は、この一年「子どもやお年寄りの笑顔がまちにあふれ、若者、すべての人が元気と安らぎを実感できる真庭市」実現に向けて精進したいと思います。

どうか、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が市民皆様にとりまして、素晴らしい年となりますよう、限りないご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶といたします。



寺畠山より
新本庁舎を望む
(12/8撮影)

新年のごあいさつ

不況を乗り越え躍進の年に

真庭市議会議長 森田 一文

明けましておめでとうございま
す。皆様におかれましては、ご家
族お揃いで、大きな希望をもつて
新年を迎えたことと思いま
す。昨年も変わらぬ景気低迷の中
で、各産業は実に厳しい年であつ
ただけに、新年にかける想いは一
段と熱いものがあるところであり
ます。

そうした昨年でしたが大きな節
目の年でもありました。念願の新
本庁舎も一部開業の運びとなりま
した。それを祝うかの様に、第二
次行政改革大綱、総合計画後期基
本計画等の策定、バイオマスラボ
の開設、真庭のモノづくり産業展
の盛会、国民文化祭の盛会、バイ
オマスマツアーフ第14回新エネ大賞
に、そしてB1グランプリでひる
ぜん焼そば好いとん会が準チャン
ピオンに輝くなど、節目の年に大
きな華を添えたところです。

そして新年を迎えましたが、景
気回復の兆しは見えません。この
ような時、躍進という言葉は似合
いませんし、お叱りを受けると思
いますが、不況を乗り越えて今年

を躍進の年にしたいと思います。

今、国内外の情勢は予断を許さ
ない状況にあるだけに、安全安心
の真庭市づくりこそ不可欠です。
特に、魅力ある地域づくり事業も
皆様からの要望により一段と使い
やすい姿に変わり、一層、地域の
活性化につながると信じます。長
年口にしてきた地方分権は、今、
地域主権に変わりました。政府は
一丁目一番地と位置づけていま
す。真庭市も合併して6年、やが
て10年を迎えます。そして地域主
権の時代、その時、財政に大きな
変化が起きるのではと案じており
ます。その時こそ執行部も議会も
今の力では通じないと想います。
二元代表制を明確にして、それぞ
れの使命を果たす事は当然の事だ
と思います。これも不可欠です。
私たち議員、個々において真庭の
ビジョンを持ち、熱い論議をおし
ます住民の代表としての使命を果
たします。

皆様のご指導をよろしくお願ひ
します。併せてご多幸をお祈りし
ます。

不登校を 超えて

平成22年8月に文部科学省が発表した調査によると、平成21年度の全国不登校児童生徒数は、約12万2千人。岡山県は2千271人で、千人当たりの不登校児童生徒数は、全国平均（11.5人）を大きく上回る13.4人となっています。▼「不登校」という言葉を最近よく耳にするようになりました。しかし、皆さんは、「不登校」について、どのようなイメージをお持ちでしょうか。学校に行くことのできない子どもたちを「怠けてる」「辛抱が足りない」などという目で見てはいいでしようか。子どもたちは学校に行けない自分自身にもどかしさを感じ、自分自身を責めています。▼今月号では、そんな不登校の悩みを抱える保護者や子どもたちの少しでも力になれるように、市が行っている取り組みについてご紹介します。

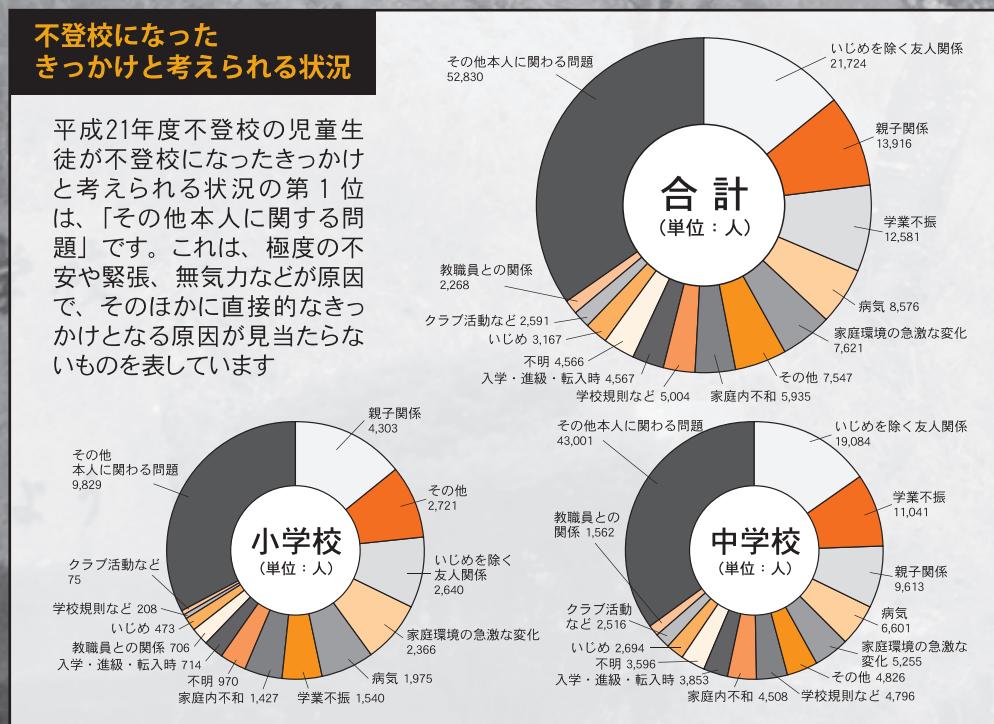
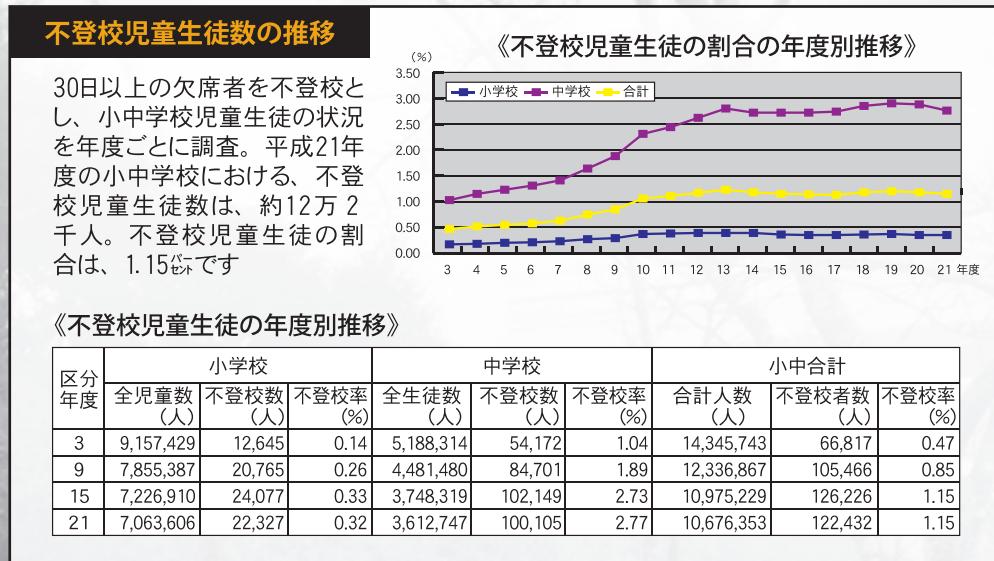


不登校を考える会 ひまわり

悩みを共有しましよう。
そして、希望と一緒に語り合いましょう。

FAX 0867(52)1428
TEL 教育委員会学校教育課
問い合わせ先

将来への不安などは、子どものことを考えれば思うほど強くなります。「出口は?」「希望は?」不登校を考える保護者が一緒になって、子どもたちの居場所づくりと、「不登校から見える希望」について話を聞いたり、情報交換をしたりしています。(次ページで前回の様子を紹介)



国公私立小中学校を対象に不登校の状況について調査を行った文部科学省発表資料(平成22年8月)より

ここでいう「不登校」とは…文部科学省の「学校基本調査」および「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」による、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的因素・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」としています

超不登校を

岩田さんのお子さんは、小学生のときに不登校に…。解決の糸口が見えず、不安は募るばかり…でも「親が勇気を出さなければ」との思いでさまざまな場所に足を運びました。お子さんは高校を卒業して、社会人となり活躍されています。岩田さんに、元気につながる体験談をお聞きしました。



interview 岩田豊子さん(久世)

小学2年生のときに、担任の先生から「教室に来てもフロアにひっくり返って、ちつとも授業にならない」と聞いて、初めてこの子がこんな状況だと知りました。低学年から学校に行けなくなり、勉強の基礎が学べないことで、「勉強が遅れる」「みんなについていけなくなる」「社会へ出たとき大丈夫だろうか」と将来のことが不安で仕方ありませんでした。

美作大学の先生に、不安や悩みごとの相談を始めたときも、「この子は将来不登校にな

将来への不安は募るばかり…

小学2年生のときに、担任の先生から「教室に来てもフロアにひっくり返って、ちつとも授業にならない」と聞

りますよ」と言われたことを今でも覚えています。その後、2年間は中学校で試験的に行われていたスクールカウンセラーに、4年生の頃からは児童相談所に行くようになりますよ」と言われたことを

相談をすることでの不安から開放された

な気がします。一人で考え込むのは、自分にも重荷になりまし、子どもにも親の不安が伝わっていたと思います。

初めて知られたアスペルガー症候群

小学6年生になる頃には、徐々に学校へも行けるようになっていましたが、中学校への入学で、また行けなくなりました。「どうしてみんなと同じことができないんだろ」「どうして学校に行けないんだろう」とずつと悩んでいました。改めて、児童相談所に通うようになつたとき、初めてうちの子がアスペルガーや症候群(社会性・興味・コミュニケーションについて

相談したからといって問題が解決するわけでも、具体的なアドバイスがもらえるわけでもありません。それでも、自分の不安な気持ちを聞いてもらえるだけで気持ちが楽になりました。児童相談所で子どもを診てもらうことで、私も不安から少し開放され、リラックスしていくよう

第2回不登校を考える会「ひまわり」で体験談を話された岩田さん。不登校で悩んでいる人たちの少しでも力になれればと、取材にご協力いただきました。

VOICE 参加者の声

白梅塾
12月4日

第2回不登校を考える会「ひまわり」
声の一部を紹介します

三十前の子どもが2人います。2人とも不登校でした。当時は、私が臆病だったことで、なかなか相談もできませんでした。今回、皆さんの話を聞いていると、私が歩んできた道そのもので、ただ反省するばかりです。今は、辛い思いを打ち明けられるようになつて気持ちが少し楽になりました。不登校は恥ずかしいことだと思い込み、世間体を気にして、一歩踏み出す勇気がありませんでした。これからは、子どもたちの自立のためにもっと勇気を出します。

一歩踏み出す勇気を

(保護者Cさん)

祖父母にとって不登校は、「怠けている」「我慢が足りない」などと恥ずかしいこと。世間体ばかりを気にして、子どもたちに辛くあたっています。かわいそうなりません。

特異性などが認められる)だと知らされました。

理由が分かつて 気持ちが楽に

この診断を知り、「もう無理をさせなくていいんだ」「みんなと同じことができなくていいんだ」「この子はこの子のペースでさせてあげたらいいんだ」そう思つたらすつかり気持ちが楽になりました。中には、そういうことを認めたくないという人もいると思うのですが、私は逆だつたのです。ちゃんとした理由が分かつたことでホッとしました。それを感じた子どももなった。私が元気になつたようでした。私の苦しい部分が全部伝わっていたのだと思います。子どもつてすごく敏感なんですね。

学校に行けない時間も この子には必要な時間

最近は不登校のことがクローズアップされ、不登校の原因にもいろいろあることが少しづつ分かってきました。怠けたり、横着をしたりというイメージを持つている人も多いと思いますが、それは違います。

不登校になる子どもは、学校に行くことをすごく頑張っています。行きたくても行けないことで、どうしていいのか分からずに自分自身と戦っています。そのことを理解して、苦しんでいることを受け入れ、親が味方になつてあげることで、子どもは安心して元気になります。学校に行けないことが悪いことだと悩むのではなく、学校に行けない時

間も、この子にとっては必要な時間なのだから「何とかなる」とちょっと楽な気持ちで考えてみてください。子どもにも楽な気持ちが伝わって、早く学校に行けるようになるかもしれません。

一人で悩まないで 相談してみましょう

私が不登校に悩んで、必死だつたとき、同じ悩みを抱える人から「大丈夫だよ。何とかなるから…」と励まされました。悩みを聞いてもらえる人がいるだけで、ずいぶん気持ちが楽になりました。「ひまわり」のような情報交換の場では、どんどん足を運ぶべきです。いろいろな人が集まっているので、きつとためになる話も聞けるはずです。決して一人で悩まないで…。

学校に行けない時間も この子にとって必要な時間

一周りの人人が理解を (保護者Eさん)

不登校になる子にはやさしい子が多いと聞きました。世渡りが上手くできなかつたり、ストレス発散が苦手だつたりするだけ。それを周りの人はよく理解して、少し気をつけてあげると、普通の生活に戻ることができます。

一中学校での居場所づくり (保護者Fさん)

不登校の半数はアスペルガー症候群だという新聞の記事をみました。うちの子もそう診断されました。小学校6年生になりますが、今のところ遅れですが、何とか通学しています。それでも来年は中学生です。環境が変わると不登校になるのではと不安でなりません。中学に入つて、不登校になる前に、なんとか学校へ居場所づくりを呼びかけていきたいと思っています。

一どこに相談したらいいの (保護者Gさん)

子どもは6年生になつて急に学校に行けなくなりました。友だちとの喧嘩が原因だと本人は言っています。学校にはすごく行きたいのに、行けない。スクールカウンセラーにも相談したのですが話を聞いてくれるだけで、何の解決にもつながりません。どこに相談したらいいのか分からなくなつて、この会に来てみました。

一幸せを祈る (保護者Hさん)

娘が中学生のとき、一時期不登校でした。振り帰つてみると、娘のことは妻に任せっきりで、父親らしいことは、十分にはできませんでした。娘が不安を抱えながら進学した大学も、途中しんどくなつて中退してしまいました。妻と娘にはいろいろな葛藤があつたのだと思います。私は、その当時、そんなに苦しんでいる2人に寄り添うことができなかつたことを今でも悔いでいます。その娘がもうすぐ結婚します。「彼のどこがいいの」と聞くと「私のすべてを認めてくれる人だから」と娘は言います。今は、2人の幸せを祈るばかりです。

スクールサポーター

スクールサポーター

生徒に近い場所から
学校生活をサポート

▼スクールサポーターは、市内すべての中学校に配置されています。その役割は、それぞれの学校で、不登校の生徒の登校を手助けしたり、家庭訪問をしたり、学校に来ても相談室や保健室で過ごす生徒をサポートすることです。

▼少しでも生徒の気持ちが楽になるように、できるだけ生徒に近い場所で、一人ひとりに寄り添いながら話を聞いています。たくさんの生徒を受け持っている先生は、とても忙しくされていますが、そんな中でも、生徒と関わり支援をされています。私たちス

クールサポーターは、その手助けをしています。不安を抱えた生徒の心を解きほぐす役割は、生徒たちが学校生活を送るうえでとても重要なと感じています。生徒が不登校にならないように、できる限りお手伝いしています。

▼不登校の生徒については、悪いことや不安なことだけが大きく取り上げられますが、決してそればかりではありません。良いところを見つけて声を掛けてあげるなどして、お互い信頼関係をつくることが大切です。敏感な年頃でもありますし、ある程度、お互いに信頼関係がないと、不安な気持ちなど、本心をしゃべらない生徒もいます。

クールサポーターは、その手助けをしています。不安を抱えた生徒の心を解きほぐす役割は、生徒たちが学校生活を送るうえでとても重要なと感じています。生徒が不登校にならないように、できる限りお手伝いしています。

▼不登校の生徒については、悪いことや不安なことだけが大きく取り上げられますが、決してそればかりではありません。良いところを見つけて声を掛けてあげるなどして、お互い信頼関係をつくることが大切です。敏感な年頃でもありますし、ある程度、お互いに信頼関係がないと、不安な気持ちなど、本心をしゃべらない生徒もいます。

カウンセリング機能を充実 より専門的な相談に対応

市内の中学校と遷喬小学校では、週一回、「スクールカウンセラー」が、子どもや保護者、先生などの相談に対応しています。より専門的な知識を持つた臨床心理士などが、施設見学・体験入塾大歓迎です。最初から入塾を考えなくともいいので、ご希望の方は、電話でお申し込みください。

問 勝山中学校スクールカウンセラー（三田190） TEL0867-44-5544
※この電話は、校舎工事のため1月中旬まで利用できません。（工事中は3135へ）

子どもがエネルギーを蓄え 新しい一步を踏み出せるように

白梅塾は、今年で4年目になりました。「学校に行かなければ」と思いながらも登校できない小学生やその保護者を対象に、学校復帰や自立へのお手伝いをしています。また、不安が少しでも軽くなるように相談事業にも取り組んでいます。現在の在籍者は3人（中2、小6、小3）。これまでには、中学3年までここへ通つて、高校に進学した子どももいれば、2年間ここに通つて、小学校へ復帰した子どももいます。今通つている児童生徒の中にも、学校に行く気持ちになつている子どももいます。不登校でお悩みの方は、お気軽にご相談ください。

A.Q 「白梅塾Q&A

Q. 見学や体験はできますか？
A. 施設見学・体験入塾大歓迎です。最初から入塾を考えなくともいいので、ご希望の方は、電話でお申し込みください。



interview
地面利子さん
勝山中学校
スクールサポーター



金田理平さん
(白梅塾相談員)

白梅塾
SHIRAEUME JYUKU

日野上1317
TEL0867-52-0732
(FAX兼用)

「まんざらでもない」
自分探しが復帰への一步

▼不登校による不安感から、子ども本来の姿を見失つたり、子ども自身も、どうしていいのか分からず自分らしさを見失つたりしています。

まずは、子どもが自分らしさを取り戻すために、不登校という枠を一度取り除き、「まんざらでもない」自分探しをしてみましょう。「手伝いがよくできる」「笑顔がステキ」「人一倍おしゃれ」「勉強は苦手だけど走るのは誰にも負けない」など、人から大切にされたり、任されたりすることで、まんざらでもない自分に自信が生まれ、それが勇気や

エネルギーとなるのです。それにより子どもたちに変化が現れます。強要するのではなく、そうやって変化を待つことが、学校復帰への第一歩につながります。

▼不登校の原因で意外と知られていない心の病気に、「思春期の鬱」があります。家族は、まさか子どもが鬱だとは思わないでしょうし、本人も

ピンとこないでしょう。しかし、「なかなか朝起きられない」「やる気がない」「考えがまとまらない」「イライラ

で、気持ちが違つてくるもので、気持ちが違つてくるものです。学校をはじめ、教育委員会、子育て健康推進課、白梅塾、児童相談所などの相談窓口や「ひまわり」のような情報交換の場もありますので、気軽に相談してください。

「寝つけない」などの子どもは、実は睡眠障害が疑われます。これらの病気は、努力してもどうしようもありません。その辺を見極めながら、適切な治療を行うことも、学校復帰への近道となります。

▼不登校の相談は、恥ずかしいことではありません。むしろ、必死でお子さんを支えようとしている家族には、何らかの支えが必要です。話を聞いてもらえる人がいるだけで、気持ちが違つてくるもので、気持ちが違つてくるものです。学校をはじめ、教育委員会、子育て健康推進課、白

A.Q. どんなことをしているの?
A. 自然とのふれあい・スポーツ・創作活動などを体験活動を通じて、学校復帰へのエネルギーを蓄えています。▼学校と家庭のパイプ役をして、学校へ復帰する条件づくりをします。▼子どもや保護者の悩みや不安などについて教育相談を行っています。(開塾日の9時~16時)

問 真庭市子育て健康推進課(落合垂水1901-5) TEL0867-52-1115(FAX1417)

interview

畦田広子さん
真庭市子育て健康推進課
臨床心理士

臨床心理士

白梅塾相談員

三村洋子さん 岩井靖夫さん

《問い合わせ先》
真庭市教育委員会学校教育課
真庭市落合垂水1901-5
TEL0867-52-1181 (FAX1428)

白梅塾(休校中の木山小学校日野上分校内)

